

---

essais ころみ 2018年3月

---

2018/3/1 強風の朝、のち  
(木) 晴れ

2月はあっという間にすぎて、はや3月。今朝早くは灰色の雲が重く地上を這っていたが、早々に晴れて、明るい陽ざし。春めいてきた。

— 自己肯定感 —

今から22年前、知人が事務所に訪ねてきて、あれやこれあとしゃべっていった中で、今も印象に残っている一言、「ずっと自分のことが嫌いだった」。そういった時の表情もよく憶えている。

“…?”。何を言っているのか、ピンとこなかった。相手は大阪のオバチャンならぬ30代半ばの威勢のいい女性だったから意外で、というのではなく、なんでそんな風に考えないといけないの?という怪訝な気持ち。

すかさずその気持ちを相手に返した。理由はたしか父親との関係だったと記憶している。話を聞き終えても、なぜそれが自分を嫌いになることにつながるのか、その思考の展開は、腑に落ちなかった。

ひょっとしたら、<言葉のあや>だったかもしれない。自分を嫌うという意味あい、感覚が違っていたのかもれない。「自己嫌悪」に陥るようなことは若い頃にはあること。

ただ、もしそのまま大人になっても引きずってしまったら、しんどい社会生活になるに違いない。人生の通過儀礼をうまく乗り越えられない生活環境になったのか、最近「自己肯定感」を口にする人が周りで増えた。

本もたくさん出ているようだし、国の政策提言のテーマにもなっている。「いいね!」が助長してしまったのか、他者からの評価ばかりを自己肯定感の柱にすえてしまう人もいる。

他者からの関心ばかりにとられるのではなく、自分自身にもっと目をむけ、みつめ、考える時間を持った方がいい。人にあって自分にはないものがあるれば、人になくて自分にあるものがある。

毎日さまざまな人やコトに接して、喜怒哀楽、いろいろな場面に接する。感情の働きを、精神の働きにつなげる<間>、時間をもつこと。そうするうちに「自己肯定感」は自育されると思うのだけど。

2018/3/6 啓蟄 曇のち  
(火) 晴れ

先週末からコートなしでもいいほどの暖かさ。地下鉄に乗ると暑いほど。そこへステッカータイプの広告が目にとまる。『車内、そろそろ暑くない?』、デオドラント商品の宣伝。good timing.

— 〈読む〉力に家系の文化遺産?! —

〈読む〉は、本を読むという時の読むといった意味でなく、時流を読むとか、人を見てその人物を見てとるといった意味での〈読む〉。

同じ人を見ても、見え方がこんなにも違うんだとリアルに認識したのは20年以上も前のことだった。

知人が友人を紹介すると言ってきた。自分で事業をしているバリバリの女性起業家だから今後の参考になるはずだからと。ある日一緒に事務所へっやってきた。想像していた感じとは違って見えた。聞くと、いわゆる「ネットワークビジネス」で高い成績を上げている人だった。

“それならわかる…”。小一時間ほど話して帰ったと思うが、内容は全く憶えていない。ただ本人の発する空気感だけは今も鮮明に残る。

人を見て〈読む〉、遠くから近づいてくる人やものから危険な感じを受ける、察知する、など等。自分自身や大切な人やものを守るための人間の野性的な力。その一つが〈読む〉だと思う。

その力にも相当に個人差がある。持って生まれた資質の差があつて、社会生活によって磨きがかかるか、逆に減退させるか。スマホ依存になってしまうと、後者が加速しそうではある。

そんなこんな話を先日、打ち合わせの合間の雑談でして、旧知の相手方から出てきた話に感心してしまった。

『そういう力って、代々のものじゃないかなあ…』。持って生まれた質がたぶん大事だろうけど、それ自体、遺伝子的にいうか、はたまた生活文化の変遷というか、そういう長い時間の中で子孫に宿る…。

ふむふむ。文字で書けばそんな感じで相手の話を聞いた。自分がいるということは前の世代がいて、またその前の世代もいるわけだけど、そういうことを打ち合わせの合間の雑談で自然に話す相手の精神性に今さらながら目をみはったのだった。

会話、対話の醍醐味はここにある。自他ともの認識、刷新。

2018/3/13 晴れ、春めく気  
(火) 温

今日もよく晴れそう。気温は今日明日にかけて上がる予報。昨日の夕方、グランフロントの庭を通ったら、沈丁花ははや花を落とし始めるものも。東大寺の修二会もクライマックス。一週間後は春分。

- 素朴な疑問、拓く社会観 ① - 「羨ましいね～、尊敬はできないけど」

最初の事務所当時は興味津々の見物がてらに訪れる男性知人も少なくなかった。ある日やってきたのは診断士を勉強していた時に知り合った人。一緒にランチしようということだった。

事務所を見て、どんな風に仕事をするのか聞かれて、答えたが、たぶん、あまりピンときていなかったように思う、いまふり返れば。ひと通り見て、少し話して、早々に「昼めしに行こう！」。

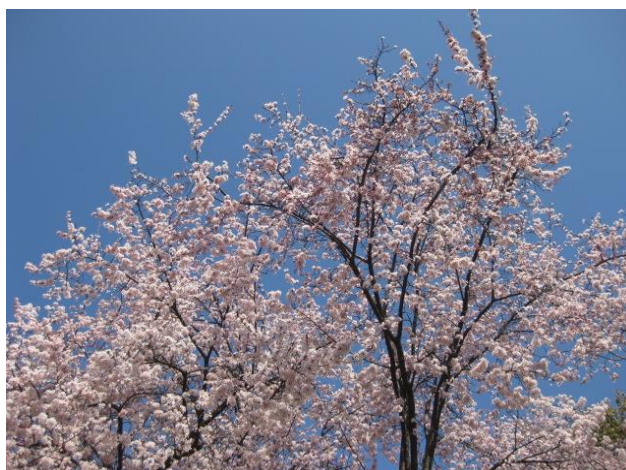
少々言葉は雑だが、人柄はよく、親しみがもてる。だから先方もやってきたし、ことらも歓迎。ランチは近くのカフェへ行った。それぞれ注文して、料理を待つ間の開口一番、「それでどう？、仕事は」。

どうって、そりゃ、それなりにやっているに違いないわけで、そう答えたら、「それは羨ましいなあ」と言った後、少し間をおいて、「尊敬はできんけど」。

尊敬？ そりゃ、そうだ、尊敬できるかどうかを判断できるほど、お互いよく知らないし。そこで自然に出た返しが、「～さんが尊敬できる人ってどんな人ですか？」。

2018/3/17 大阪城公園  
(土)

クレオ東館の起業相談担当日。行きかえりに大阪城公園を散歩。スモモの花が満開、桃は詐欺始めたばかりでした。



クレオ東館玄関の木蓮もほぼ満開



2018/3/15  
(木)

晴れ

今日は春コートもいらぬほど。昨日と同じぐらい20度越えの気温。今年の桜の開花は例年より早い模様。もうそういう季節。

- 素朴な疑問、拓く社会観 ② -

「～さんが尊敬できる人ってどんな人ですか？」。

知り合って小一年、親しみのもてる人だけど、個人的に二人っきりで話をするのは初めて。先方には悠々自適な仕事生活と見えたのか、羨ましいけど尊敬できないと言われても、そりゃ、そうでしょうという感じ。

だから自然の会話として尋ねたのだった、先方の価値観はどのあたりにあるのかと感じて。

すると少し間があって、「尊敬できる人、…いないなあ」。

尊敬できる人がいない…？ 「それっていいことなのかなあ…」。感じたことをそのまま呟いた。

また間があって、先方が何か話してくれた。ただその内容はまったく憶えていない。印章にない。とにかく5往復ぐらいやりとりをした。

その末に先方から「一人いるなあ、高校のときの部活の先生」。

「そうですね、やっぱり、いるでしょう」。いてよかったという風なことを話して、次の話題へ移ったのだった。

尊敬できる人がいないのがなぜよくないと感じたのか。それは追ってまた考えるとして、その後この一幕が思わぬ展開をもたらすことになる。

2018/3/20  
(火)

雨

昨日も今日も雨。季節の変わり目、ひと雨ごとに春が進む。今週末ぐらいに大阪でも開花宣言？

－ 素朴な疑問、拓く社会観 ③ －

尊敬できる人はいないと言いながら、よくよく考えるとたしかににいる。最後にはそう言った知人に、それはよかったと人ごとながら感じたのは何故だったか。頭で考える前に直感的なものだった。

あらためて考えてみると、人間は急に偉人になるわけではないし、社会を構成する一員としての在り方を少しずつ学んでいくのだから、学びの対象があつてしかるべき。そう意識するともなく意識してのことだと思う。

この、最終的には尊敬できる人がいるとなつた知人との会話は、個人的にユニークな話の流れだったと感じた。だからすぐに、当時事務所に出入りしていた別の知人に話したのだった。

すると、「えっ？ そんなこと言ったんですか?!」。

うん？ 何が…？ 先方の目を丸くし啞然とした表情と返事に、こちらがビックリした。「何が？」と聞き返して、いわく「尊敬できないけどと言われた相手に、尊敬できる人ってどういう人かと聞くなんて…！」。

普通はそんな風に聞き返さないというのだった。仕返しをしていると受けとめられかねないからと。それはないと思うよと、話の流れと場面を詳しく説明したが、それでも「普通は、そんな風に聞き返しませんよ」。

これは一つのカルチャーショックだった。社会認識再構築の始まり。

2018/3/23 晴れ  
(金)

昨日も今日もよく晴れた。気温は低いままだけど、陽ざしはしっかり春。お向かいのJR西日本本社ビルの公園、桜一分咲き。

－ 素朴な疑問、拓く社会観 ④ －

「普通は、そんな風に聞き返しませんよ」。

そう指摘されて、本当に知人の言う通りだろうかと考えた。実際どうなのだろうと知りたくなった。

以降会う人ごとにこのエピソードを話して、意見や感想を聞いた。だいたいの人が知人と同じ反応をしたが、皆、次のように話してくれた。

『たぶん、聞き返された相手は、最初、「やばい！」と感じたでしょうね。余計なことを言ってしまったと。でも話し方や表情から普通に聞き返しているとわかって、聞かれるままに会話を進めていったんだと思いますよ。それにしても、相手にとっても初めての経験じゃなかったですか、まさか、ほんのツッコミおつもりが、真面目に聞き返されるとはまったく想定外だったでしょうから』。

聞き返すのではなくて、はははっと笑って受け流すのが＜普通＞だということだった。＜普通＞に聞き返すのは＜普通＞でなかったということになる。

この一例で少し社会認識の扉が開いた。そしてその後も＜事例＞が続くのだった。

2018/3/28  
(水)

晴れ

大阪も桜満開。連日晴れて、絶好の花見日和。でも二の足を踏む。花粉とPM2.5、そして紫外線のせいか、目の回りが赤くなってきた。それでもタイミングをみて一日ぐらいは桜散歩の予定。

- 素朴な疑問、拓く社会観 ⑤ -

わたしにとってはごく自然に聞き返した会話のカタチが、「普通」はそうしないと指摘されたことは、すぐには合点がいかなかった。老若男女、会う人ごとに尋ねて、なるほど世の中の8割がたはそうかもしれないと至った。

その後も同じように、事務所に出入りしていた知人を通して、いくつか<開眼>した。一つは、「同じということに皆、安心するんですよ」。

とっさに、「それでなぜ安心できるのか、ようわからんなあ…」と何気なく言ったら、知人の動作が一瞬、とまった。えっ?!という表情をしているのだった。

目を丸くしたまま、「安心じゃないんですか?」と確認された。全くない。皆と同じなら、そこに埋没してしまうようなもの。それが「安心」?。そもそもそういうセンス自体がない。そう感じて、返した。

これには知人の方が<カルチャーショック>を受けたようだった。「世間」というのもまた、身心いしみこむ感覚がずいぶんあるらしいということも教えてもらった。

いつか別の知人が言ったことがある。「海外旅行をするとき、飛行機が空港を離陸した時のあの開放感!」。最初、言っている意味がよくわからなかった。

キョトンとしていたら、説明してくれた。日常の諸々しがらみからしばらく逃れられて、自由になる!感覚だと。「そういうことないですか?」。「ないですね」。拍子抜けしたような先方の表情が今も目に浮かぶ。

素朴な疑問が身近で巻き起こした小さな波紋。おかげで自他ともに観察の目を持つようになったのは間違いない。もうかれこれ20年も過ぎてきたから、それなりに社会観察ができてきた、わたしなりに

<普通>は聞き返さないことを聞き、話さないことを話す。そういうことをよしとする人もまた少なくない。彼、彼女たちにとっては、<話せる>相手ということになり、今に至っている。